

第4次佐倉市総合計画 総合計画審議会（第3回） 要録

日 時	平成 22 年 6 月 25 日（金） 14 時～16 時	場 所	1 号館 3 階会議室
出席者	審議会委員：亀山委員、熊本委員、坂口委員（副委員長）、鈴木委員（委員長）、田中委員、津留崎委員、西村委員、原委員、平川委員、松崎委員（五十音順）		
	事 務 局	小柳企画政策部長 企画政策課 小島課長、橋口副主幹、舎人主査、呉屋主任主事 他 1 名	
	そ の 他		
発 信	内 容		
委員長	<p>本日は、事務局説明ののち、審議会委員が意見交換する場としたい。前回最も多かった意見は、佐倉市は貴重な財産を有効活用していないということだったが、第4次総合計画では、それを活用して重点施策としたい。</p>		
事務局	<p>（1）第4次佐倉市総合計画策定について <説明> 第4次佐倉市総合計画基本構想（案）（資料 12、13） 資料 12：行政報告として、6 月定例会市議会にて配布した資料である。 市議会では、中間報告として概要を説明した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化などの社会構造が変化した。心豊かに暮らす社会を目指す。 ・ 都市としての成長は、人口増加で見ると、10 年前との比較では 3%弱の伸びだが、現在は横ばい成長。人口減少は都市の活力を損なう。第4次総合計画では現在人口の維持、微増を目指す。 ・ 計画期間については、基本構想 10 年間、基本計画は前後期各 5 年、実施計画は毎年度見直しをする。 <p>資料 13：策定本部、審議会で提案されたものを明文化した資料。素案の段階である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5 頁：佐倉市将来像。 目標は平成 32 年度。人口は資料 12 の 5 頁参照、基本構想のなかでは「現在人口を減少させない」としたい。 将来都市像は地域特性、社会潮流をとらえ、「文化 芸術 緑と花のまち 佐倉～心豊かに住みつけたいまちをめざして～」とした。文化：佐倉市の文化財を活かした商業観光につなげ、緑：住環境の改善で住みやすいまちづくりを目指している。 ・ 7 頁：まちづくり方針。行政分野を 6 分野に分けた。 <ol style="list-style-type: none"> I) 思いやりと希望にみちたまちづくり II) 安全で快適なまちづくり III) 新しい佐倉の人づくり、まちづくり IV) にぎわいと活気あるまちづくり V) 活力みなぎる災害に強いまちづくり VI) とともに生き、支え合うまちづくり 		
委員長	<p>意見交換</p> <p>キャッチコピーを含め、次の佐倉市に必要なものを、委員さんの意見を十分に聞いて私たちの考える総合計画としてとりまとめていきたい。</p> <p>まずは、坂口副会長が先にまとめていただいた資料があるので、説明をお願いしたい。これは、坂口副会長と事前に審議し、私たちの意見を出していくということで事務局に了解を得ている。より効果的な審議会であるべきだとして、事務局の基本構想案のみにしぼられるのではなく、広く意見を出したい。</p>		

副委員長	<p>今までの審議会での議論により、基本構想が総花的になるのは仕方がないと認識している。しかし、世相から見ると、悠長なことを言われていられない。もっと政策の絞り込みが必要である。会長と相談して案を作成した。</p>
副委員長	<p><説明> 第4次佐倉市総合計画基本構想答申書（案）について（資料「総合計画審議会案」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに：市民の声を反映しなくてはならないということをふれた。 ・2頁、第1段：審議会案を作成した理由。財政再建団体となるなど、自治体が危機的な状態に陥らないように、対策を取らなければならない。 第2、3段：第4次総合計画の目的。佐倉市の特色を活かした内容とした。 第3次総合計画と第4次総合計画との違いを明確にする。市民が安全・安心な生活を送る。施策の優先順位が見えるよう方向付けをする。 第4段：具体的なプロジェクトなどは、第3次総合計画のようにきれいな言葉でつづられたものではなく、インパクトのある言葉を使う。「課題」でなく「危機」と、直接的に踏み込んだ言葉を使う。 ・3頁：この先10年間の重点施策。審議会や市民満足度調査等で重要視された施策をまとめた。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史・自然・文化がピーアール不足だと、市民意見にあがっている。 2. 商店街の活性化。店舗貸与なども検討課題としていれてみた。 3. 外国人に住みやすいまちづくり。成田に近い立地でもあり、率先してやりたい施策。 4. 市民の関心が高いのは、安全安心なまちづくり。地域包括支援センターなど力を入れており、佐倉市の安全安心対策の水準は高い。地域力を高めるのが大事だ。 5. 関係市町村との連携の重視。前回の会議で言及された事項である。 6. 都市と農村の共存。地方都市ではないが、都会としての顔、農村風景が共存する顔を佐倉市は有している。それを、将来のまちづくりに活かす。
委員長	<p>意見交換</p> <p>今後数年で、環境が顕著に変化すると予想される。近隣市町村での変化も影響するだろう。審議会案は、現状としての佐倉を危機としてとらえ、近隣市町村との連携を含めて、佐倉の特色を前面に出していこうという姿勢がある。みなさんの意見を伺うたき台として、会長・副会長で相談して提出した。</p> <p>基本構想、実施計画のどちらでもいいから幅広く意見を伺いたい。</p>
亀山委員	<p>私は、外部から見てこうすればいいと提案するアドバイザーの立場なので、まずは市内在住・在勤のみなさまの意見を伺いたい。</p>
平川委員	<p>仮キャッチコピーについて。第3次総合計画と第4次総合計画を衣替えするという意味で、「文化芸術」としたと思われるが、芸術は文化に含まれる。さらに、現行のキャッチフレーズの「歴史」を、なぜ削ってしまうのかが理解できない。また、「緑と花のまち」とあるが、その基盤には水があって、そこから谷津田、河川の存在につながる。「自然」を言い換えるなら、「水と緑と花のまち」だろう。</p> <p>資料13、11頁。Ⅱ「安全で快適なまちづくり」の提案について。18万都市と農村の共存をいかに図るかが課題だ。佐倉の住みよい街の第一条件は、東京と異なる自然の豊かさである。農村風景と都市を共存させるのは可能である。</p> <p>例えば、『うつし世の静寂に』という映画がある。川崎市宮前区に谷津自然が舞台だ。地域住民を強く結びつけた講が存在していて、谷津を中心にして結合していた。残念ながら軍部にそれを利用され、講や祭りが解体されたが、その復活をしようとする機運が</p>

ある。戦前から伝わっていた文化の保存活用により、地域の人の意識が戻り、地域に戻ってきた。同様に、佐倉の農村風景は県内でも良く残っている方だ。安全安心についても、地域を結び付ける基盤づくりを今後は十分に考えられたい。

佐倉の基盤が整備されていく仲立ちになるのは、自然だろう。都市化に頼らずとも「心豊かに住み続けたいまち」につながり、人口増も望める。それを織り込まれた総合計画の策定は可能だ。今あるものを大事にする一方で、印旛沼の浄化に手を加え、水施策の基盤とされたい。

原委員意見
(事務局代
読)

キャッチコピーが「歴史・自然・文化」から「文化・芸術・水と緑」に代わったが、第3次総合計画のキャッチコピーは、佐倉市の魅力を十分に表現していると感じている。

都市と農村の共存は、佐倉の魅力である。緑はその一部であり、すべてではない。これから10年先に成熟社会に不可欠なのは、自然である。美しい里山を再生・保全することが、観光拠点にもなる。

また、「緑の骨格づくり、緑の拠点づくり」は都市農村総合整備として進める必要があり、大型公園の整備でない。

松崎委員

今後の福祉は、地域型福祉を展開する。身近なところにいかに福祉サービスがあるか。その根底は文化にある。つまり、人とのつながり、結びつきである。地域型福祉において、親密圏域が重要になってきている。

同時に、住まい方も変わっていくだろう。生垣を低くして、隣近所と交流できるような街づくりや、複数の家庭で庭を共有する建設する方法が進められているところもある。

バリアフリーからユニバーサルデザインへという国の施策も変更しており、福祉施策の基本として、個別計画だけでなく、都市計画の中にしっかり入れてほしい。

また、障害者、高齢者、母子世帯雇用、寡婦、ホームレスへの就労支援など、身近なところで雇用対策が実施されるのが大事だ。コミュニティビジネスと結び付けるのが福祉施策として重要だろう。自分の持てる能力を活かして社会で生きていくという生きがいを与えるまちづくりが大事だ。

そして、医療が身近で手に届くかどうか、地域型福祉への転換では重要だ。在宅医療を支えていく医療・介護施策があれば、自宅の中で老いることが可能な社会となる。福祉ボランティアなど活動がさかんであるのも良い。お互いに支え合う関係性が必要であり、講などとも異なる、新しい市民活動を支える仕組みを考えるのが大事だ。

熊本委員

佐倉市の重点項目は大きく分けて、「全市民の安全安心」「活気のあるまちづくり」ということと考える。

安全安心は、多大な労力・金を必要とするが、外部から見て効果が高いとは言えない。市民の定着化が望める程度と考えられる。特化したまちづくり施策の方が、効果の発生は早く、産業施策は最も効果が高いだろう。

もっとも、市民意識調査によると、安全安心への市民の関心が高い。子育て・老後・災害への不安を払しょくした後、産業振興施策に注力することになるだろう。

しかし、財政に限りがあり、安全安心全施策をカバーすることはできない。災害によるPTSD等、市民力では対応が難しいものもある。防犯については、プライバシーの問題はあるが、犯罪の抑止力として、防犯カメラの設置を検討する時期ではないか。

また、活力ある佐倉づくり、産業振興、食文化を大切にするまちづくりのひとつとして、まちづくり懇談会でも提案されている、道の駅の開設を検討されたい。内外から集客が見込め、佐倉市の特産品を宣伝する発信基地のひとつになる。設置を民間にゆだね、市も設置場所など協力できるのではないか。

若者も集うまちづくりを目指すのも重要だ。佐倉市は歴史的な観光地であり、自然を楽しめる場所もあるが、どちらかというと大人向けだ。子ども・若者を中心にした、ち

びっこ〇〇大会等を開催してはどうか。市の内外から人を集められるよう、マンガコンクール、アニメコンテストを全国から参加者を募り、佐倉が表彰するなど良い。保護者の参加、他の観光地への波及効果もある。

全般的に、ピーアールが足りない。インターネットの活用、マスコットキャラクター、観光大使など宣伝対策をとられたい。

それから、道路に自転車専用レーンの併設をされたい。自動車・自転車・人の区別することは、安全歩行やモーダルシフトで地球環境にもよく、健康改善にもなる。莫大な予算はかかるが、50年後の未来に資する。

歳入増加については、市の財源、収入を掘り起こすのが大事だ。ネーミングライツ、市の媒体に広告募集など。あらゆるものを収入につなげる必要がある。市の歳出予算の2.6%、毎年10億円を3~5つの重点項目に振り分け、3~5年間かけて事業を育成してはどうか。

田中委員

事務局案はよく出来ているが、総花的でおもしろみがない。今までの総合計画はすべて、内容が同じだ。10年で取り組まなければいけない重点課題とあるが、そのために何をやるかの具体性がない。

例えば、観光客を増やすために、道路の整備を重点課題とする。また、税金を増やすために何をやるかの具体性もない。アメリカのように、泥棒がきたら閉門するなど都市計画から犯罪防止対策をする。新町通りにも同様の対策をするなど対策をとるのが、安全安心のまちと言える。また、京成電鉄と協力して、風光明媚な高級住宅街を印旛沼周辺につくれば、高所得者が定住すれば、税金面で非常に効果が高い。また、他市町村では駅前に託児所をつくると、都心に通う転入者が増加した。

そういった具体的な施策が基本構想案には見えてこず、すでにわかっているものばかりが記載されている。大きな旗印を立てて施策をすべきであるし、過去に計画された施策もいつのまにかうやむやになっているものが多い。

津留崎委員

審議会としては、的を絞り込む案を出すか、答申書のように佐倉らしいものを出すかに議論がまとまりつつある。基本構想はどこまで具体性に踏み込むべきか。具体的なものと佐倉で挙げるならば、印旛沼と佐倉城址だ。この二つを前提と認識して、保存維持し、まちづくりを進めてはどうか。歴史・自然・文化が標榜されているが、歴史自然に比べ、色彩、景観、看板対策など景観施策は目立たない。鎌倉などは景観を重視しているが、佐倉市はあまり重視されていないようだ。都市化すると復元が難しいので、都市化する前に保存してはどうか。

また、事業仕分けを国で行ったが、事業の仕分けであり、全体の仕分けではない。400億円の予算の仕分けをして、1割削減を目標にスクラップアンドビルドを検討していくのが大事ではないか。

自然の保存と、人口増加、開発、雇用対策と景気拡大。全てを目指すと、二律背反するものだ。寺崎を開発したが、影響は人口の市内異動にとどまっている。開設したスカイアクセスなどを利用した対策など、慎重に検討されてはどうか。

西村委員

総合計画案は良いが、全施策が実施できるかという点で難しい。このなかで重点項目をつくる。構想計画書などつくり、重点項目に付帯物件をつけて進めていってはどうか。

例えば、3本に1本は臼井停まりの京成電鉄を、佐倉終点の本数を増やすなど対策を講じてはどうか。

また、地域包括センターで把握しているように、高齢者社会に向けて、問題は増えていく。老人が介護施設と医療機関をたらいまわされるような状況もある。後見人になるのも手続きが多い上に、生活全てを後見人が取り仕切らなくてはならない。遠距離居住の後見人の問題など、現実に沿った計画を立てていくのが今後も望まれる。

	<p>流山市は佐倉の類似団体だが、つくばエクスプレスも開通し、共働き夫婦も増えている。公園を維持し、駅に仮託児所を設けるなど、若い層が子どもを育てられるよう計画を持っている。</p>
委員長	<p>今回は、審議会案としては表題を決定しておきたい。</p>
副委員長	<p>「文化芸術」とあるが、芸術より「歴史」。「緑と花」も、よりやわらかい雰囲気、キャッチコピーで整えていただければどうか。</p>
委員	<p>キャッチコピーを今日決めてしまわなければならないのか。なぜ文化なのか芸術なのか、慎重に議論を尽くすのは大事だ。なぜ芸術が歴史になったのか、その背景や狙いをしっかりと議論を尽くして行ってはどうか。</p>
委員	<p>将来像の設定にはいろんなアプローチがある。事務局案は現状追認的であり、いま市が持っている特色を出している。しかしながら、10年後の佐倉に現状をあてはめていくのは甘すぎるという意見もあるだろう。そういった議論に、時間を費やしても遅くない。</p>
委員	<p>将来的に、この策定に対する評価がされるだろう。何ができて何ができなかったのか、それも評価されるべきだ。</p>
委員	<p>答申書の2頁は、審議会の志が述べられている。優先順位、危機感とあるが、実は優先順位をつけるのはきつい作業だ。どの施策も大事なのに取捨選択を求められる。決断の時に、最後はこの将来像に戻ってくる。総合計画は三層構造である理由もここにある。重点項目は基本計画に書くことになり、その基礎になるのが基本構想の将来像だ。ここをおろそかにすると、この先、基本計画の審議の際に困ることになる。そして、実施計画をする段で、目的をたどっていくときにも、必ず基本構想の将来像に戻る。だから、慎重に審議したほうがよいと考える。</p>
副委員長	<p>学識経験者である委員は大所高所を話し、市民公募委員は身近な問題を話す。会議の進め方として、両方の委員は同じ土俵ではない。両者をかみあわせていく必要があり、今日はその場だと言える。</p>
委員	<p>かみあわない原因を探ると、資料13の4～5頁の基本構想論の展開に飛躍がある。概況→課題→将来像と流れるべきところ、現状認識・課題が付されておらず、説明不足がある。今回の資料では課題が付されていないが、前回出された資料のなかには存在した。事務局で課題を議論されたプロセスがあったはずで、そこで取り上げられた課題を基本構想案に加えてもらい、審議会に示してほしい。</p>
委員	<p>また、本日の審議会では、流山のマーケティングや、高所得者の移住などいろいろ提案があった。そこに、市民の危機感が示されていると言える。佐倉は恵まれたものを持ってはいるが、外部から見ると危機感が不足していると感じる。その危機感を、基本計画、実施計画で落とし込んで反映していけばいいのではないだろうか。</p>
委員	<p>佐倉は閉鎖的な性格があるまちだ。善政した歴史に依拠しているが、他のまちに比べ、保守的な土壌があるかもしれない。</p>
委員長	<p>亀山委員には、今後の方向性を意見していただいた。佐倉の危機を感じるほどの状況をいかに脱していくか、対外的な知名度が低いためにアドバルーン的なものが必要という意味で、キャッチコピーを本日の会議で取り急ぎ固めたいと考えたが、議論を尽くして、キャッチコピーをつけたい。</p>
副委員長	<p>審議の方向性については、前回、演繹的な手法もあるという話があった。</p>
委員	<p>仮キャッチコピーという手もある。それを決めるとすれば、「歴史」「文化」は残し、「花と緑」は審議継続ということでもいいか。</p>
委員	<p>本日は「花と緑」の前提に「水」があるという意見が出された。キーワードとしては、「歴史」と「水」の2つである。</p>
委員	<p>また、キャッチコピーに含める姿勢としては、印旛に人を迎えたいという姿勢ではなく、住んでいる人の暮らしやすさがより重要という理解でいいか。</p>
副委員長	<p>産業振興で人を迎えたいという思いはあるが、基本構想のキャッチコピーに反映する</p>

<p>委員 事務局</p>	<p>のは難しい。同様に、キャッチフレーズに入れるほどでもないが、「教育のまち」。有名な教育者、大学創立者のピーアールも、佐倉は力を入れてほしい。</p> <p>キャッチフレーズは事務局でのどう検討したのか。</p> <p>社会潮流・市民意見を検討した中で、浮き上がってきた佐倉を代表する単語を、庁内の策定本部会で選んだ。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>選択基準としては、現状認識か、将来的に望むものか。</p> <p>「歴史」は現状認識で選択した。「花と緑」は、まだ有名とは言えないが、佐倉も年間通じて花が咲くまちであると認識していることによる。</p>
<p>委員 委員</p>	<p>「花と緑」としたのは、「自然」では不十分という感じがあったからか。</p> <p>千葉市は花のまちを標榜しているけど、佐倉は年間通じて花があるまちとして施策を立てているのか。</p>
<p>委員長</p>	<p>佐倉には年間通じて花が有名な名所がたくさんあり、経済効果の高い場所もある。国際的なバラ会議も招致している。今後は計画に位置付けていこうとして選択したのではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>もっと具体的に書いてほしい。基本構想案にある具体性はファシリティマネジメントくらいだ。</p>
<p>委員</p>	<p>基本構想だから、具体性をそこまで求めなくても良い。総合計画の下に位置付けられた個別計画には非常に細かく、具体的な計画も決められており、基本計画にはそれが盛り込まれる。それを全部とりまとめたとき、どういう将来像になるのか、それを書くのが基本構想ということになる。</p>
<p>委員</p>	<p>いろんな施策がマクロに展望されるなかで、佐倉の理念理想のキーワードが将来都市像として示されるのが望ましい。「緑と花」も、事務局で選択した背景を示してほしい。</p> <p>将来都市像は、まずコアになるキーワードを一つ抽出し、次に他のキーワードをちりばめて、一番佐倉の将来像を表現するのは何かを選択するのが良い。そのキーワード案を、次回、事務局に出してもらおう。必ず盛り込みたいキーワードは何かを押さえれば、われわれの意志も入ることになる。</p>
<p>事務局 委員長</p>	<p>持ち帰り、次回、キーワード案を提案する。事務局案についてもプロセスを提示する。</p> <p>議論の進め方としては、予定する会議数を増やしてでも、議論を進めても良いかと考える。</p>
<p>副委員長</p>	<p>繰り返しの議論では進まないの、今日の議論をまとめておき、次回の審議に活用したい。</p>
<p>委員</p>	<p>まとめると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局案に、現状認識を加える。 ・将来都市像のキーワードを、事務局がいくつか提示する。 <p>以上の素材があれば、現状認識を踏まえたときに、キーワードは決まってくる。時間を限定し、キーワードを決める形式が効率的である。6本の柱については、いまは議論せず、次の基本計画で議論を尽くせばいい。基本構想で議論すべきは現状認識と将来都市像だ。</p>
<p>委員長</p>	<p>市民公募委員の意見も重視しつつ、現状、過去のいい面悪い面を事務局に提案してもらって、次回以降、議論を進めたい。</p>
<p>委員</p>	<p><傍聴退席></p> <p>(4) 事務連絡</p> <p>日程調整の結果、次回は7月23日午前とする。時間は後日調整とする。</p> <p>次回の審議は、基本構想だけか。</p>

事務局 委員長 事務局	<p>基本計画は、現在作成中である。次回は、策定経過を用意する予定である。</p> <p>次回の審議で、絞り込みたいポイントは。</p> <p>キャッチフレーズは「歴史・自然・文化」のほうがいいとあれば、それでよい。あくまで答申であり、それを市で再検討する流れとなる。もう一步踏み込んだ議論をいただいても良く、審議会答申として前向きに受け止め、検討させていただく。</p>
委員	<p>答申とは、こうしたほうがいい、ここに留意してね、と、外部の意見を庁内に提案するものである。</p>
事務局 委員	<p>また、キャッチフレーズに関して、完成形のキャッチフレーズと、必要なキーワードの抽出と、どちらを答申したほうがいいのか。</p> <p>審議会に一任する。</p>
委員長	<p>なぜこの言葉を選んだのかという背景が示されないと、審議会でも言葉尻をとらえた議論になる懸念がある。キーワードを抽出した背景を示してもらえれば、建設的な代案が出せると考える。さらに、そのキーワード抽出につながる現状認識が一對になって出てくれば、審議できるし、代案もできる。</p>
委員	<p>現状認識と、危機感は表裏一体である。過去に取り上げられたものを含め、率直に資料を出してもらったほうがいい。</p>
副委員長 委員長	<p>基本構想案 2 頁の課題は、ミクロな課題を対象としている。第 1 回目に提出された課題に関する資料を再度提出してもらって、次回は審議したい。総合計画は市民が見るものなので、表現が踊っていれば読んでもらえない。地に足がついた事務局の課題を示すことには、是が非でもこだわってもらいたい。そこからキーワードが絞り込めていく。危機的状況を示す資料を出す方が、市民の認識も深まる。</p> <p>回数等議論の制約はあるが、議論を深めて、答申を出していきたい。</p>
<p>以上（終了：16 時 00 分）</p>	